

トップアスリート系列 2023



福島県立

ふたば未来学園中学校・高等学校

トップアスリート系列

優れた競技力とリーダーシップを 兼ね備えた変革者

双葉地区未来創造型リーダー育成構想※が掲げる「真の国際人として社会をリードする人材の育成」を目指し、充実した環境のもと授業トレーニング等で競技力とリーダーシップを身につけ、競技力を生かして自らの進路を切り拓き、トップアスリートや生涯スポーツ社会のリーダーとして社会を牽引する人材を育成します。

[系列の特色]

高度な技術・理論を習得する授業トレーニング

バドミントン、レスリング、男女サッカー、野球の各競技において、部活動と連携した高度な技術・理論を習得することを目的とした授業トレーニングを行い、競技種目を横断した組織的な強化とともに、主体的な判断力等の資質・インテリジェンスに立脚した優れた競技力を育成します。

充実した育成環境

ナショナルレベルの実績を有する優れた指導力のある教員やスペシャルコーチを配置するとともに、専用アリーナや専用グラウンド等のトレーニング施設や、アスリート食を提供する寄宿舎を整え、充実した育成環境で競技力を育成します。

生涯スポーツ社会のリーダー育成

「未来創造探究（総合的な探究の時間）」等で、スポーツを通じた地域の復興や活性化を目指す探究的な学習に取り組み、自ら地域課題を解決するスポーツ・ビジネスのプラン等を立案・実践できる能力を養成し、トップアスリートや生涯スポーツ社会のリーダーとして活躍できる力を育成します。

※ 双葉地区 未来創造型リーダー育成構想について

「真の国際人として社会をリードする人材の育成」を基本目標とする、関係団体（県、双葉郡各町村、日本サッカー協会等の競技団体、大学等）の連携により平成18年度にスタートした人材育成プログラム。

これまでの取り組みによって、富岡高校バドミントン部の卒業生である桃田賢斗選手が2018年から約3年間、世界ランキング1位に君臨するなど、東京オリンピック代表に7名の卒業生が出場し、メダルを獲得するなど、着実に成果を収めてきた。平成29年3月に新構想『双葉地区 未来創造型リーダー育成構想』に改訂され、「震災後の課題先進地域だからこそ、未来創造型の人材を育成する」「競技力だけではなく、タフでしなやかな、新時代のリーダーを養成する」「ふたば未来学園を新たな核としながら、多様な主体の協働を推進する」ことが柱とされている。



バドミントン

中学

高校

～PR～

バドミントン専用体育館でスペシャルコーチ（アンタルクルニア・セナトリア アグス）（インドネシア出身）の指導を受けることができ、国内だけでなく国際大会や国外での研修の機会などを設けながら競技力と人間力の育成に重点を置き活動しています。日本国内だけでなく、世界で活躍できる選手になるため日々練習に取り組んでいます。

～指導方針～

一人ひとりの個性を尊重し、自由な発想のもと自主・自律の精神を培い「スポーツを通して世界に羽ばたける人材育成」を目指します。また、「WORLD STANDARD」(世界基準)での取り組みができるよう、世界に目を向けた活動と意識の定着を図ります。

主な実績

(中学)

全国中学校バドミントン大会

男子団体 優勝 7回 (H22～25 H29～R元)

女子団体 優勝 9回 (H21 H23～26 H28～R元)

男子シングルス 優勝 7回、ダブルス 優勝 4回

女子シングルス 優勝 6回、ダブルス 優勝 6回

全日本中学生バドミントン選手権大会

優勝 8回

全日本ジュニアバドミントン選手権大会

男子シングルスジュニア新人の部 優勝 7回

女子シングルスジュニア新人の部 優勝 3回

(高校)

<全国高等学校総合体育大会バドミントン競技>

男子団体 優勝 4回 (H25,H26,H29,R3)

女子団体 優勝 6回 (H24,H26,H28,H29,H30,R1)

<全国高等学校選抜バドミントン大会>

男子団体 優勝 3回 (H28,R3,R4)

女子団体 優勝 3回 (H24,H25,H28)

<世界ジュニア選手権大会>

男子シングルス 優勝 男子ダブルス優勝

女子シングルス 準優勝 混合ダブルス 第3位 など

部員数

中学 30名 高校 28名

中学 1年男子 6名 女子 4名 2年男子 5名 女子 5名
3年男子 5名 女子 5名

高校 1年男子 5名 女子 5名 2年男子 5名 女子 3名
3年男子 5名 女子 5名



活動場所 アリーナ2 (バドミントン専用アリーナ)
活動時間 週 2 5 時間程度

年間活動計画

(中学)

- 5月 東北選抜バドミントン大会
全国大会プレ大会
- 7月 福島県総合体育大会
福島県中体連バドミントン大会
- 8月 東北中学生バドミントン大会
全国中学生バドミントン大会
- 9月 全日本ジュニア選手権
- 11月 全日本総合選手権大会
福島県新人バドミントン大会
- 12月 ジュニアグランプリ
東北中学生新人バドミントン大会
- 3月 全日本中学生バドミントン選手権大会
- *その他、国内遠征、海外遠征

(高校)

- 5月 日本ランキングサーキット
- 6月 福島県高校体育大会、東北高等学校選手権大会
- 7月 福島県総合体育大会、アジアジュニア選手権
- 8月 全国高校総合体育大会
- 9月 全日本ジュニア選手権会
- 10月 世界ジュニア選手権、国民体育大会
- 12月 福島県高校新人体育大会
全日本総合選手権大会
- 1月 東北選抜大会
- 3月 全国高校選抜バドミントン大会 など
- *その他、海外遠征、海外大会への参加

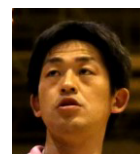
主な指導スタッフ



高校監督
本多 裕樹
ジュニアナショナルチーム
(U19) コーチ



高校顧問
大久保 菜摘



高校顧問
中村 善之



中学監督
齋藤 亘
ジュニアナショナルチーム
(U16) コーチ



中学顧問
村松 瑞穂



中高顧問
久場 圭祐

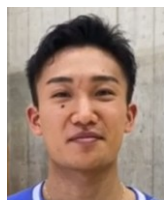


スペシャルコーチ
アンタル・クルニア



スペシャルコーチ
セナトリア・アグス
元インドネシア代表

先輩メッセージ



桃田 賢斗
平成24年度卒

富岡で過ごした6年間は僕の原点です。
毎日バドミントンのことを考えて、いつも強くなりたい
という気持ちがあったからこそ、今の僕があります。
皆さんも今こうして過ごしている日々は、将来にとって
のかけがえのない糧になります。
スポーツでは結果として勝ち負けがありますが、必死で
過ごした日々は人間的にも成長させてくれます。だから
こそ、毎日を一一つ大切に過ごして頑張ってください。

2023日本代表 (ナショナルチーム) 選出OB/OG

A代表

齋藤 太一 H23年度卒
松居 圭一郎 H24年度卒
桃田 賢斗 H24年度卒
保木 卓朗 H25年度卒
小林 優吾 H25年度卒
大堀 彩 H26年度卒
東野 有紗 H26年度卒
渡辺 勇大 H27年度卒

B代表

三橋 健也 H27年度卒
仁平 菜月 H28年度卒
川上 紗恵奈 H29年度卒
高橋 明日香 H29年度卒
佐藤 杏 H30年度卒
廣上 瑠依 R02年度卒





レスリング

中学 高校

～PR～

レスリング道場にはレスリングマット2面の専用施設や、トレーニング器具が完備されており、全国・世界大会出場経験がある指導者に指導を受けることができ、技術・体力の向上だけでなく、社会に通用するリーダーの育成にも励んでいます。

～指導方針～

日々の活動を通じて与えられた大会に真に向き合い、その活動を通じて現代社会の変化に対応できている人材の育成を目指し、「人間力なくして競技力向上なし」の実践でチームを育てている。

年間活動計画

- 4月 JOCジュニアクイーンズカップ
JOCジュニアオリンピックカップ
- 5月 北日本少年少女レスリング選手権大会
- 6月 福島県高等学校体育大会
東北高等学校体育大会、全国中学生大会
- 7月 福島県総合体育大会
- 8月 全国高校総体
- 10月 国民体育大会、全日本女子オープン大会
- 11月 福島県高等学校新人体育大会
全国中学生選抜大会
- 12月 JOC杯予選会
- 2月 東北選抜大会、U13ジャパンオープン選手権
- 3月 全国選抜大会
U15アジア選手権日本代表選考会

主な実績

- JOC杯ジュニアクイーンズカップU17の部
40kg級、73kg級 優勝 (U17世界選手権日本代表)
- JOC杯ジュニアオリンピックカップ男子個人ベスト8
- 全国高等学校総合体育大会 女子/男子個人対抗戦出場
- 東北高等学校選手権大会 女子個人対抗戦 優勝
男子個人対抗戦 優勝
- 国民体育大会 出場
- 福島県高等学校体育大会 男子個人優勝
女子個人優勝
- 全日本女子オープン大会 第3位
- U13ジャパンオープン選手権 女子54kg級 優勝
男子38kg級 第3位

部員 中学9名 1年男子2名、女子1名
2年男子2名、女子1名
3年男子1名、女子2名

高校7名 1年男子1名、女子2名
2年女子1名
3年男子1名、女子2名



先輩メッセージ

トップアスリートの授業では、大切な基礎や技術だけでなく、人として大事なことを学ぶことができました。体育大学に進むことを決めたので、さらに人としての力を磨き、競技力の強化を図っていききたいと思います。

穴戸拓海

日本体育大学体育学部
平成29年度卒

主な指導スタッフ



監督
砂川 航祐
2018全国社会人
オープン選手権優勝
2014世界大学選手権5位
2012全日本学生選手権優勝



顧問
吉田 幸司



スペシャルコーチ
内山 結愛

活動場所 アリーナ I B I レスリング場
トレーニングルーム

活動時間 平日約3時間 休日約4時間





男子サッカー

高校

～PR～

JFAからの派遣で砂金伸先生を監督としてチームに迎え3年目となり、サッカー部専用の人工芝グラウンドで毎日高いレベルの指導を受けることができます。またJFAメディカルセンターから医療サポートを受けることができるなど、集中してサッカーに取り組める環境が整っています。

～指導方針～

常に選手自身に「考えること」を求め、素早い「判断・決断・実行」ができるような機会をトレーニングから与え、たくましい選手・チームを目指す。Creativeなチーム・スタイルにこだわって指導しています。ピッチ内外問わず、「謙虚・素直・集中力・強いメンタル」を求め、高校サッカーの「プロ」を目指します。

主な戦績（令和4年度）

第68回福島県高等学校体育大会 ベスト8
 第101回全国高等学校サッカー選手権福島県大会 ベスト16
 令和4年度福島県高等学校新人体育大会福島県大会ベスト16
 高円宮杯JFA U-18サッカーリーグ2022福島1部リーグ所属
 高円宮杯JFA U-18サッカーリーグ2022福島2部リーグ昇格
 第10回東北U-16Rookie League2022 2部 第5位

主な指導スタッフ



監督
 砂金 伸
 JFA派遣
 スペシャルコーチ
 JFA公認S級コーチ
 元日本高校選抜監督



コーチ
 四家 寛功
 保健体育
 JFA公認C級コーチ



コーチ
 永山 真
 保健体育
 JFA公認C級コーチ
 オランダサッカー協会
 ユースコーチング
 ライセンス



コーチ
 目黒 祐太
 保健体育
 JFA公認B級コーチ

年間活動計画（令和5年度）

4月～10月 リーグ戦（1部、2部、ルーキー）
 5月～6月 高校体育大会
 10月～11月 全国高校サッカー選手権大会福島県大会
 11月～12月 新人体育大会
 その他 遠征・練習試合、キッズコミット



部員46名（1年：21名、2年：15名、3年：10名）



活動場所 ふたば未来学園高校サッカー場
 活動時間 平日約2時間 休日約3時間



野球

高校

～PR～

3度甲子園に出場している双葉高校を始めとした野球が盛んな双葉地域の復興を目指して頑張ります。

～指導方針～

「個」を生かすことを第一に、自主性・協調性を育て、人間的な強さを身に付けることを目指します。
野球を深く知り、野球を通して身に付けた力で地域に貢献できる人になることを目指します。

主な戦績

【県大会】

- 第71回春季東北地区高等学校野球福島県大会 ベスト4
- 第101回全国高等学校野球選手権福島県大会 ベスト8
- 第71回秋季東北地区高等学校野球福島県大会 ベスト8
- 第73回秋季東北地区高等学校野球福島県大会 ベスト8
- 第105回全国高等学校野球選手権記念福島大会 ベスト8

【地区大会】

- 第74回春季東北地区高等学校野球福島県大会相双支部予選 優勝
- 第74回秋季東北地区高等学校野球福島県大会相双支部予選 優勝
- 第75回春季東北地区高等学校野球福島県大会相双支部予選 優勝

年間活動計画

- 3月：選抜高等学校野球大会（甲子園）
- 4～5月：春季支部大会～県大会
- 6月：東北大会、春季支部選手権
- 7月：選手権福島県大会
- 8月：全国高等学校野球選手権（甲子園）
- 9月：秋季支部大会～県大会
- 10月：東北大会、秋季支部選手権
- ※その他高野連行事、練習試合（遠征）等

卒業生の主な進路先

- ・福島レッドホープス ・東京農業大学北海道オホーツク
- ・東日本国際大学 ・駿河台大学 ・中央学院大学
- ・新潟医療福祉大学 ・流通経済大学 ・仙台大学

主な指導スタッフ



監督 遠藤 太
保健体育：磐城高校
順天堂大学・硬式野球部



部長 鈴木 智之
保健体育：白河高校
大東文化大学・硬式野球部



部員28名(1年：12名 2年：4名 3年：10名 (MG：3年男子1名、1年女子1名))

活動場所：本校野球場(校舎隣接) 活動時間：平日約3時間 休日約4時間



公式戦も行われる全面人工芝
のサッカーグラウンド！！



野球グラウンド

練習試合も行える野球部専用
グラウンド！！
両翼約92m
センター約116m

↓アリーナ1 アリーナ2→



バスケットボールコート
3面分の広さ！



バドミントンコート10面常設！！
体育の授業で使用する場合があります。

※レスリング場、トレーニングルームの写真はレスリング部のページにございます。

トップアスリート 系列専属AT派遣 及び 専属トレーナー紹介

JFAからのトップアスリート系列 専任トレーナー派遣

本校では、県・双葉郡各町村・日本サッカー協会等との連携による「ふたば地区未来創造型リーダー育成構想」に基づき、トップアスリートの育成に取り組んでいます。各種目の人材育成を行うために、日本サッカー協会(JFA)の御配慮により、2021年9月より日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格を保持するトレーナーを本校専任として派遣していただいています。

対応内容

- ① アスレティックトレーナーによるセルフコンディショニング及び怪我予防対策に関する指導
 - ② アスレティックトレーナーによる怪我の応急処置及びその後の指導
 - ③ アスレティックトレーナーによる怪我からの復帰のための助言
 - ④ その他
- ※ パフォーマンス向上のためのメディカルサポート及びセルフコンディショニングの力を身につけさせる指導が基本となります。怪我の治療や施術は各自での通院を基本とします。

トレーナールーム



久保 翔太



経歴

帝京大学 医療技術学部スポーツ医療学科健康スポーツコース卒 (2019)
東京スポーツ・レクリエーション専門学校 アスレティックトレーナー養成科卒 (2021)

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー (2021)
NSCA-CPT (National Strength and Conditioning Association - Certified Personal Trainer (2021)
NASM-PES (National Academy of Sports Medicine - Performance Enhancement Specialist 2022)
赤十字救急法救急員 (2019)

トップアスリート 育成を支える環境

生涯スポーツ社会のリーダー育成

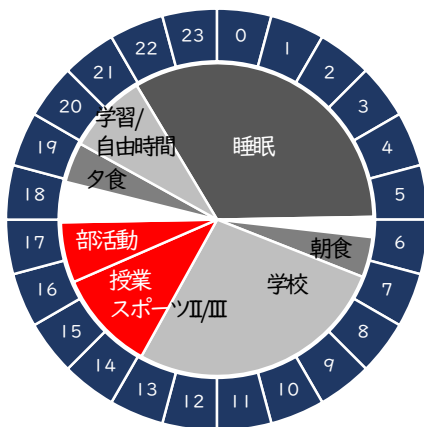
競技力のみならず、スポーツを通して地域の復興や活性化に貢献していく資質・能力の育成を目指し、中高6か年でスポーツを通じた地域の復興、創造に取り組む探究的な学習を行い、自らの在り方・生き方を見出すとともに、地域課題を解決する能力を身につけます。

中学の『未来創造学』では、双葉郡の地域とスポーツの関わりについて探究した上で、スポーツの力で地域を活性化させる実践「地域スポーツ実践探究」や、競技に繋がる、フィジカル、メンタル、リーダーシップ等を探究する「競技探究」に取り組みます。

高校の『未来創造探究』では、原子力災害によって地域に生じている課題を直視しつつ、スポーツを「する」「見る」「支える」に「知る」の視点を加え、各視点から、スポーツを通じて地域を豊かにすることを目指して探究に取り組みます。子どもの体力向上につなげるプログラムを構築して地域の小学校で子供たち向けに実施したり、高齢者の健康増進と地域活力創造に繋げることを目指して地域の歴史とウォーキングを掛け合わせたプログラムを考案するなど、生徒達は様々な実践を重ねています。



フランスのロクサナ・マラシネアヌ スポーツ大臣（左から2人目）に、バドミントンで高齢者の健康増進をはかるプランについて発表し意見交換する生徒（木村百伽・右・現ヨネックス、染谷菜々美・現筑波大）



寮生の一日の生活（高校生）

寮生活

ふたば未来学園高校には立志寮と海風寮の2つの寮があり、遠方から入学した中高生が親元を離れて生活を送っています。生徒主体での歓迎会やクリスマスパーティーなどの行事運営や、寮生活を自分たちで創り上げる自治活動を積極的に行っています。親元を離れて共同生活を送る経験を通して、人間性や協働する力を育みます。

本校寮には教員（寄宿舍指導員）7名と寄宿舍監督者16名の合計23名が24時間体制で勤務しています。常日頃から学級担任や部活動顧問と連携を図り、寮生一人ひとりに寄り添った指導を心がけています。指導員は、寮生だけでは解決できない問題や日々の生活に対して随時指導とアドバイスをし、共によりよい寮を創り上げています。

寮での3食の食事はアスリート食を提供し、競技力の基盤となる身体を創り上げる食育の指導も行います。



川田 百華さん
R5年度立志寮寮長
バドミントン部

Q 寮生活をしてみて、良かったことはありますか？

A 単純に毎日がとても楽しいことです。自分の世界を持っている人もいれば、友達とワイワイしている人、夜の点呼後食堂でお餅を焼いて食べている人、たくさんの個性を持った人たちが生活をしています。たまに騒がしすぎる時もありますが、部活の疲れも吹っ飛んでいくくらい毎日楽しいです！

Q 寮生活で大変なことはありますか？

A 洗濯やお風呂です。たくさんの生徒が遅くまで部活をしているので、帰寮時間が被った時は洗濯やお風呂の争奪戦になります。

Q 寮生活を通して、どんな部分で成長したと感じますか？

A 両親へ感謝する気持ちが強くなったことです。家にいる時は洗濯や食事などサポートしてもらうことが多かったですが、寮生活をして自分でなんでもするようになってからは「こんなことを毎日当たり前のようにしてくれていたのか」と感謝の気持ちでいっぱいです。

Q 寮生活の魅力はどんなところですか？

A 私たちの立志寮はアスリートばかりなので、部活でどんなに上手くいかないことがあってもいつでも近くに支えてくれる仲間がいるということです。1人では絶対やっていけないことも、みんながいるから頑張れていると思います。寮での生活は楽しいことばかりではありませんが、何があっても1人じゃないことが魅力だと思います。